

ー みなとまちを考えるシンポジウム ー

開催地挨拶



唐津市長 坂井 俊之



シンポジウム開催地挨拶の様子

皆様、こんにちは。ただ今ご紹介に預かりました唐津市長の坂井でございます。シンポジウムの開催にあたりまして、地元開催市を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」が主催をいたしますシンポジウムを開催いたしましたところ、会員の皆様方をはじめとして、このように多くの市民の皆様方にご出席をいただきまして、地元市長として厚く御礼を申し上げる次第でございます。

まず初めに、主催者のご紹介をさせていただきたいと思いますが、この「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」は、地理的にも歴史的にも相互に関係のある日本海沿岸の港湾都市を中心に構成されている協議会組織でございます。港湾を核とした地域間の交流と発展を目的にいたしております。この組織は、平成7年に設立をされ、現在69団体が会員となっております。

唐津市も昨年、このネットワークに加入をいたしてございまして、平成18年度の総会が九州で開催されるとお聞きし、唐津での開催をぜひということをお願いをいたしましたところ、快くご了承いただきまして、先ほど隣の会場で総会が開催されたところでございます。本日のシンポジウムは、このネットワークの総会の一環として、テーマの設定につきましても、地元開催市に一任を受けて開催するものでございます。

さて、ご来場の皆様方の中にはすでにご承知の方もいらっしゃるかと存じますが、来年の4月から、壱岐へのフェリーが唐津港の東港地区から就航いたします。現在、県のご尽力によりフェリー埠頭の整備が進められておりますが、市では、一昨年の6月に「唐津港町づくり懇話会」を発足し、国、県、市、そして行政機関、或いは市民の皆様方、港湾関係者の皆様方、一堂に会して、これからの唐津の港町づくりについて議論を重ねてきたところでございます。

その結果、フェリーが就航する東港地区を唐津の海の玄関口とすることなど、唐津港の再生に向けた地域素案を取りまとめていただきまして、県のほうで改訂をされました新しい港湾計画にも、大いに反映させていただいたところでございます。

そこで、このような唐津の港町づくりの取り組みを踏まえ、今回、市民の皆様方やネットワークの会員の皆様方とともに、港町づくりについて一緒に考えていく、そういった機会とするために、本日の『港町を考えるシンポジウム』を開催させていただきました。

唐津の港は、来年4月の壱岐フェリーの就航を契機として、東港地区を中心に大きく変わろうとしてきております。古来より、大陸との交易・交流の要所として栄えてきました。まさに字のごとく「唐（とう）の津」、「唐（から）の津」の再生をめざすためには、行政だけではなくて多くの市民の皆様方の知恵と活力を必要といたします。本日のシンポジウムでの具体的な活動事例や、専門家の港町づくりに関する技術論を通しながら、港に目を向けていただき、港町づくりについて考える機会になれば幸いですと考えております。

結びになりますが、本日ご講演いただきます皆様方、並びに、シンポジウムの開催にご協力いた

だきましたネットワークの事務局の皆様方、そして北陸地方整備局の皆様方をはじめ、九州地方整備局をはじめ国土交通省の皆様方、県関係の皆様方、まさに、心よりこの開催、そしてまた内容の充実、さまざまご指導いただいておりますことを心より感謝申し上げますとともに、ご来場の皆様のご健勝とご活躍を重ねて祈念を申し上げ、お集まりの各、それぞれの自治体のますますの発展・繁栄を心から重ねて祈念を申し上げて、私からの歓迎のご挨拶とさせていただきます。皆様方、本日は誠にありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。